

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校 定時制

学校番号 36-06

I 自己評価

1 学校教育目標	「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。																						
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導																						
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学を中心に、基礎学力の定着が不十分である。また、授業規律について、継続的な支援・指導を必要とする生徒が一定数いる。 ・教科の授業とLHRや総合的な探究の時間との連動、日本語指導との連動を意識し、横断的な指導に向けてさらに研究が必要である。 ・生徒へのアンケートでは、探究活動（日本語プレゼンテーション）や少人数での学習支援に対する評価が高く、保護者へのアンケートでは、教育活動に対する取組、少人数での学習支援に対する評価が高い。 ・家庭内で、学校生活全般に関する情報共有が少ない傾向が見られる。 																						
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の基礎・基本を習得させるとともに、学ぶ意欲を向上させる。 ・教員間の連携を密にし、授業評価アンケートも有効活用しながら、生徒の実態把握に努め、効果的な指導・支援方法を取り入れる。 ・授業内で、外国籍生徒の日本語能力を高める取組を行う。 																						
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・副校長、分掌長、教科担任、クラス担任、養護教諭、外国人児童生徒適応指導員、保護者が一体となって生徒支援をする。 ・少人数授業、ティームティーチング授業を実施する。 																						
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																						
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数・習熟度別授業、ティームティーチング、補充 ・国語・数学を中心とした基礎学力の定着の確認 ・職員間で情報共有をする十分な機会の設置 ・生徒による授業評価アンケート、生徒、保護者に対して学校評価アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査への取組と結果の分析 ・日本語能力試験受験、校内漢字検定や数学基礎力テストの実施と結果分析 ・授業評価アンケート、学校評価アンケートの分析と具体的改善策の考察 																						
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																					
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数・習熟度別授業、ティームティーチング、補充の実施 ・日本語能力試験対策（5、6、11、2月）、校内漢字検定や数学基礎力テストを2回（6月、2月）計画、実施 ・週2回の連絡会、月1回の職員会議での情報共有 ・外国人児童生徒適応指導員との連携、生徒支援 ・授業評価アンケート（10月）、学校評価アンケート（7月）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査結果の個人・全体推移 ・日本語能力試験の受験率と合格者数 ・校内漢字検定、数学基礎力テストの取組の様子、合格率と推移 ・生徒による授業評価アンケートでの授業への理解度、満足度 ・生徒、保護者による学校評価アンケートの学校経営への理解度、満足度 	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
A	B	C	D																				
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数・習熟度別授業、ティームティーチング、授業前や放課後の補充を実施することで、丁寧な学び直しの機会を設けることができた。授業前や授業後に自主的に学ぶ生徒が増えた。 ○日本語能力試験の受験者数が増加した。（12月はN1(1級)6名、N2(2級)1名受験） ○生徒による授業アンケートを通して、授業への理解度や満足度が高いことが分かった。苦手な教科に対しても粘り強く取り組む姿勢につながっている。 ○9月の休校中には、オンライン授業を活用し、学びを継続できた。 ○内容を翻訳して「すぐメール」を活用し、保護者が情報を得やすくなるようにした。 ▲保護者に確実に情報を届けるための工夫をする必要がある。 		総合評価																				
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制は外国籍生徒が7割以上を占めている。また、中学校で不登校だった生徒が多い。授業規律を遵守することに一定期間を必要とする生徒、日本語能力が不足していたり、漢字・数学の基礎学力が不足していたりしている生徒が多い。まずは授業に集中できるよう、その時間の「目的」を明確にし、生徒にすべきことの「見通し」をもたせる。その上で「生徒による授業評価の分析」「ICT機器を効果的な活用」などを効果的に取り入れ、生徒が興味をもって取り組み、学ぶ楽しさや成長が実感できるような授業を目指す。 																						

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月1日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観では、生徒が真面目に授業に臨んでいる様子を見て感心した。教員が楽しい授業を作ろうとして工夫していることが伝わってきた。 ・日本語プレゼンテーション大会は、発表内容についても発表の仕方についても、大変レベルが高く、日ごろの学習成果が現れていた。 ・単位修得困難な生徒への学習支援の在り方を工夫してほしい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校 定時制

学校番号 36-06

I 自己評価

1 学校教育目標	「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・今年度の卒業予定者は18名である。そのうち進路内定者は進学が2名、就職は11名である。5名の生徒が進学・就職先未決定となっており、特に就職希望生徒については現在も就職活動をしている最中である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	社会に適応できる能力の育成と進路希望の実現 1) 地域創生キャリアプランナーと連携し、職場訪問、進路ガイダンスの充実による勤労意識の育成を図る。 2) 美濃加茂市経営者協会、美濃加茂市役所産業振興課などと連携して会社説明会を開催する。(本年度は2月9日に実施予定) 3) 入社試験対策の充実(小論文・履歴書作成・面接指導等)	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・キャリア教育の全体計画の精緻化(HR担任、教科担任との連携) ・総合学習・特別活動との連携・進路行事の充実 ・就職支援のノウハウ共有・継承	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・社会で必要とされる人材を育成するため、4年間という長期的な展望を視野に入れたキャリア教育を行う。 ・進路ガイダンスや企業説明会等を通して、在校生の進路意識を高める。	以下のデータを用いてPDCAサイクルで次年度以降に見直しを図る。 ・進路内定率 ・現況調査の記述(在学生の就業状況の把握)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・ライセンスアカデミーと提携し、職業分野別進路ガイダンス・面接試験講習会を開催した。卒業予定者が語る会を12月10日に実施した。2月9日に美濃加茂市産業振興課、美濃加茂市経営者協会と「企業説明会」を共催する。人材確保に関心が高い美濃加茂市内の企業に企業説明をしていただき、興味をもった生徒やアルバイト先を探している生徒とのマッチングを通して、「卒業後の正社員登用」を模索する。 ・進路アンケートを実施し、生徒一人一人のニーズをつかむとともに、担任や教科担任と連携を取って、希望進路の実現を目指す。	・生徒が主体的に進路選択について情報収集を行いながら自ら考え、周りの協力を得ながらその実現に向けて行動することができたか。(4年生) ・生徒が卒業後の進路について考える機会を通して意識を深め、進路実現に必要な行動を始めることができたか。(1～3年生) ・全職員の共通理解の下、生徒の進路実現の具体的な支援ができたか。(教員・地域創生CP)	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	○地域創生キャリアプランナーに企業研究・入社試験対策などをサポートしていただいた。昨年度心配したコロナの影響も回復傾向が見られた。 ○休校の影響を受けて時期は変更になったが、進路行事は例年通りのものを行うことができた。 ○公開求人票の条件を見て会社見学を希望する企業の選定や入社試験を受験する企業の選定を生徒自身で考えようとする態度が見られた。 ▲5名の生徒が進学・就職先未決定となっており、特に就職希望生徒については現在も就職活動をしている最中である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・担当の経験に左右されず、充実した進路指導が行えるような体制作り、仕組み作りとともに業務継承を確実にを行う必要がある。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月1日

【意見・要望・評価等】 ・生徒一人一人の進路実現に向けて大変よくやっただいてほしい。引き続きよろしくお願ひしたい。 ・卒業生が後輩に自分の進路を語る取組は大変貴重である。一番のキャリア教育になる。 ・進学先や就職先未決定の生徒について、その要因は何かを明らかにすることで、具体的な改善方策が明確になるのではないかと。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校 定時制

学校番号	36-06
------	-------

I 自己評価

1 学校教育目標	「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の学校評価アンケートでは、生徒指導及び教育相談に係る全ての項目で、8.6割～9.5割の、大変高い肯定的な意見をいただくことができた。ただし、昨年度も高かったため、割合の上では成果や課題は分かりにくい。来年度も、生徒が基本的な生活習慣を身に付けられるように指導する事を重点にして、更に理解が得られるように取り組んでいきたい。 毎年の課題であるモラルやマナーの指導の取組も、一定の成果があったと感じるが、コロナ禍の中で更に改善が必要な点も日々実感するところであるので、今後も継続的に取り組んでいきたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活態度の確立とバランスの取れた人間性の育成 健やかな心身の育成 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部・教育相談部と、担任、適応指導員との連携体制の構築 教育相談部とスクールカウンセラーとの連携体制の整備 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> 登校時の健康チェックを通して生徒の様子を観察する。 職員と生徒が協力して教室や廊下などの美化運動を推進する。 ルールやマナーを身に付ける指導を行い、学校生活の意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を抱えている生徒の早期発見と対応ができているか。 教室がきちんと整備されているか。校舎にゴミが落ちていないか。 保護者や生徒によるアンケート調査から、学校生活の満足度、学校の方針への理解度を測る。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 健康チェック、声掛け、行動観察 人権LHRによる啓発活動 HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部カウンセラーと連携した教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の生徒の状況把握、挨拶、遅刻防止、交通マナー指導の効果 教室整備、ゴミの分別回収の状況 SC等との研修・懇談の実施と指導方法の研究、相談者の評価 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p> <p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>
11 成果	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○有志の生徒による放課後の教室の整備では、生徒会の生徒を中心に年間を通して活動する姿が見られた。 ○登校時の健康チェックにより、コミュニケーションも増え、担任が生徒の状況をよく把握できるようになり、問題の早期発見、早期対応にもつながった。 ▲昨年度より授業中や休み時間に大声で話してしまう生徒が減少したが、まだ声をかけないと心配な生徒もいる。モラルやマナーの継続的な指導が必要。 ▲コロナ禍における授業規律や集会指導等の一層の工夫改善が来年度の課題。 	<p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 職員連絡会での生徒情報交換を充実させることで、支援を必要とする生徒や問題行動等に対する全職員の情報共有を図り、組織的対応を充実させる。 交通安全教育、情報モラル教育を通じて、命を大切にして自他を思いやる心を養うための啓発活動を充実させる。 学校行事を通じた学校生活の基盤としてのホームルーム運営を充実させる。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月1日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国につながる生徒や不登校経験者にとって必要なモラルやルールの指導について、生徒に分かりやすく取り組まれているところが素晴らしい。また、全職員が一体となって、組織的対応をすることを大切にされるという点にも共感した。 マスクで顔の半分が覆われ、互いの表情を把握しにくい状況ではあるが、生徒が悩み等を抱えて苦しんでいないか、今後も引き続き見守っていただきたい。

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校 定時制 学校番号 36-06

I 自己評価

1 学校教育目標	「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇特別活動		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動に対して、多くの保護者から肯定的な評価をいただいている。 生徒からの意見においても、学校行事等や部活動に対して、多くの肯定的な意見があがっている。 照明祭や球技大会に対して、生徒、保護者共に肯定的な意見をいただいた一方で、2年間実施できていない行事もあるため「わからない」という意見も増えていた。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒会活動を中心に、よりよい学校行事の運営や生徒主体の活動を促す。 ◇部活動顧問と連携し、活力と充実感あふれる部活動を展開する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動を軸にした行事等への取組を強化する。 生徒主体で行事を企画・運営するなど生徒会活動の活性化を図る。 部活動に参加しやすい環境を整える。また、生徒の興味・関心に応じた部活動を展開する。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事の見直しと改善 部活動の円滑な運営 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事への生徒の参加状況 部活動の実施状況 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が積極的に行事を計画し、運営できるようにする。 生徒による発表の機会を増やす。 職員の連携によって部活動の時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が企画・運営しているか 生徒の発表機会があるか 部活動の時間を確保しているか 	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> C D	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度も新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止・縮小となった。その中でも生徒が活動できるように工夫して運営することができた。 ○できるだけ部活動の時間を確保し、円滑な運営をおこなうことができた。 ○部活動に加入する生徒の割合が多く、部活動がより活発になり、良い成績を残すことができた。 ▲新型コロナウイルスの影響もあり、学校行事の企画・運営を生徒主体で行うことができなかった。 		総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に、学校行事の企画・運営を任せ、それをバックアップしていく体制の強化を行う。 学校全体で取り組める活動をより多く企画するなど連帯感を高められるようにする。 活動機会や時間の確保など、活発な部活動の運営を行う。 感染予防の徹底や開催内容を工夫し、今年度実施できなかった学校行事をできるようにする。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月1日

【意見・要望・評価等】

- 「来年度に向けての改善方策案」に書かれた最初の2点は、教育目標具現のために学校でできることとしてとても意味のあることだと思う。多文化共生社会の実現を果たしている学校として、外部へもその取組を積極的に発信してほしい。
- 部活動が大変活発である。全ての運動系部活動（バスケットボール、サッカー、バドミントン）で全国大会に出場できたり県内第1位になったりしたことは本当に素晴らしい。